

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより

第60回

桜咲く明治時代後期の二荒山神社参道と、
エハガキ店星野屋の店先

エハガキ店星野屋 其の一

宇都宮をはじめ日光、那須など、栃木県内を写す絵葉書の多くに、写真説明とあわせて「星野屋」の名前が印刷されている。その表示は、「明神下星野屋製」、「明神下星野屋支店発行」「馬場町大通星野屋製」とさまざまであるが、それはすべて宇都宮二荒山神社参道石段下に戦前まで店を構えた絵葉書問屋星野屋を指すことに相違ない。

星野屋の初代柏田長七は、一八八五(明治十八)年に和歌山

で生まれ、横浜の絵葉書業「星野屋」で修業。外国人に好まれた江戸島、藤沢、鎌倉、小田原、箱根など湘南地方の風景絵葉書を手がけていたという。

当時の時代背景をたどれば、一九〇〇(明治三十三年)九月十七日に通信省が私製絵葉書の制定を告示、写真や図案を用いた絵葉書の発行が容易になったことから絵葉書業が生業として成立していったものと考えられる。

長七はその後、星野屋から暖簾分をし、日光、那須、鬼怒川、川治など栃木県内の観光地絵葉書を作るために来宇。「星野屋商店」の屋号で、一九〇五(明治三十八)年ごろ二荒山神社前に店を構え、絵葉書製造に乗りだした。星野屋は、撮影から封筒の意匠、印刷、販売まで一貫して行い、県内全域に販路を拡大。ホテルの宣伝用絵葉書や、第十四師団など軍関係の記



宇都宮に星野屋を設立した柏田長七

念絵葉書も手がけた。『北関東の中枢 宇都宮の景観』(十六枚組)と題された封筒の裏側には、「宇都宮市伝馬町星野屋印刷部」とあり、分店日光の電話番号とともに、取扱品目として「美術印刷一般・エハガキ製作・各種アルバム・額縁額装・便箋封筒・ランプ花札」と記されている。また、星野屋の特徴として絵葉書表面の切手貼付場所に、星印にKの文字が白抜きされていた。

今に残る「明神前」を写した絵葉書の左側に、『「エハガキ」星野屋支店』の丸い看板と、絵葉書が並べられた陳列台を見ることができ、往時の商い振りが、しのばれる。のちに星野屋は大通り沿いに洋風三階建ての店舗を出店。看板にタバコ、パイプの文字が見えることから、喫煙具など絵葉書以外に、幅広い商品を取り扱っていたことがうかがえる。(続)



(宇都宮名所) 明神前 (宇都宮神社参道下二荒山)